

社会保障・シニア



ゆうゆうLife



「1・7・介護保険で『小規模多機能型居宅介護』と呼ばれるサービスだ。この朝、7、8人の高齢者がスタッフに手を引かれて公園へ向かった。ゴミ拾いのためだ。公園では、車椅子の女性がトンクで吸い殻をつかむ。作業はのんびり、休み休み。それでもゴミ袋はいっぱいになつた。

「おたがいさん」では、利用者が公園の清掃や草むしり、児童の登下校の見守りに

お年寄りは支えられるだけの存在ではない。そんな哲学でケアをする事業所がある。神奈川県藤沢市にある「あおいけあ」では、要介護の高齢者が公園のゴミ拾いや清掃などの「社会貢献」に携わる。介護事業所は今後、地域の交流拠点になることも期待されている。1つのモデルになりそうだ。(佐藤好美)

小規模多機能型住宅介護 支えられるだけでなく…

現場では「役に立たない人」にされてしまう。社会貢献は身体機能の向上になるし、「ありがとう」と言われれば、本人の達成感や生きがいになり、表情が生き生きとしてくる」と言う。

社会貢献だけでなく、地域づくりにも熱心だ。事業所には垣根がなく、小学生や近所

も携わる。「散歩」には見向きもしない高齢者が「草取り」には腰を上げるという。

近所の公園でゴミ拾いをする「おたがいさん」の利用者ら（手前右は看護師）＝神奈川県藤沢市

要介護の人も「仕事」に携わると、てきめんに生き生きとする。敷地内の「デイサービス事業所」「いどばた」（平均要介護度2・3）でもケアの哲学は同じだ。

の人が敷地の小道を通っていく。
スタッフは子連れ勤務OK。
放課後は子供たちが家にランダセルをぼうり投げて遊びに来る。「おたがいさん」の玄関には小さな駄菓子屋があり、認知症の高齢者が店番をする。計算は子供の仕事。「草団子の会」や「流しそうめんの会」などのイベントでは、子供が一緒に準備をし、模擬店も出した。

(86) 朝10時、元表具師の男性が木工道具を抱えてやつてきた。リビングでイベント用の花作りが始まつても身の入らぬ様子に、笑顔のスタッフがそぐわぬ大声で声を掛けた。耳の遠い男性への配慮だ。

「一人の人間としてケアを」

認知症の人の自宅での暮らしを支援する精神科医、上野秀樹さんの話「生産年齢人口と高齢者人口を比べ、何人で支えるという図がある。高齢者が常に支えられる存在と見なされることに違和感を覚える。『退職したら悠々自適』の国と違い、日本人は働くのが好きで、引退したくない人が多い。だったら、日本の民族的、社会的ニーズにあつたケアがあつていい。周囲が世話ををする存在だと思い、そう接すると、お年寄りは世話をされる存在になる。だが、廃用症候群で寝たきりの人でも筋トレで筋力が回復すると、姿勢が良くなり、歩く。トイレで排泄^{排せき}できるようになると、表情の輝きが変わり、生きる力や誇りを取り戻す。社会や地域に貢献できると、生きる価値を周囲に与りまくるようになる。重度で世話をされていた人が、自分から動くようになる。『あおいけあ』では高齢者を世話される対象でなく、生活する一人の人間としてとらえるケアを徹底している。若者が支えないので済むよう、お年寄りが元気で一緒に、人間として生きられる社会を作ることが大切だ」

「いどばた」で本棚を修理する男性（左）と、子供時代に遊びに来ていて就職したスタッフ（右）



の男性
でやつ
ペント
も身の
スタッフ
を掛け
の配慮
ジファイ
だけど、
あうにな
る。

秀樹さんの話「生産年齢人口と高齢者人何人で支えるという図がある。高齢者これらがいる存在と見なされることに違和感『退職したら悠々自適』の国と違い、動くのが好きで、引退したくない人が多たら、日本の民族的、社会的ニーズにあがっていい。周囲が世話ををする存在だそう接すると、お年寄りは世話をされる。だが、廃用症候群で寝たきりの人で筋力が回復すると、姿勢が良くなり、イレで排泄できるようになると、表情のわり、生きる力や誇りを取り戻す。社会貢献ができると、生きる価値を周囲にふりつになる。重度で世話をされていた人が、動くようになる。「あおいけあ」では高齢される対象でなく、生活する一人の人らえるケアを徹底している。若者が支ゆよう、お年寄りが元気と一緒に、人生きられる社会を作ることが大切だ